

人口減少に歯止めをかけるための地方創生に関する政策提案

資料1

番号	提案日	氏名	提案名	提案理由	提案内容
1	5月29日	公募委員 松尾佑一郎	若年層の定住化推進	長野県下條村は若年層向けの集合住宅を建設し、格安の家賃を設定。さらに医療費は高校生まで無料、第3子以降は保育料も無料にした。小学校入学時に村で使える商品券を3万円、中学校時には6万円を祝い金として配布するなど子育て支援に関する施策を重点的に行っている。このような他市町村の良い事例を取り入れてほしいから	鹿島市でも市有地または点在する空き地のうち学校、商店に比較的近いところの物件を取得し、若年層向けの住宅を建設、定住してもらう施策をつくり、他市町村に先駆けて実行する。
2			スポーツ合宿の取組み	スポーツ合宿をもっと盛り上げるため	現在、受け入れている大学は限られているので、関東大学陸連加盟のライバル校を積極的に受け入れることで、かなりPR効果がある。青山学院大学、法政大学、専修大学などを積極的に誘致する。
3			体験型の観光旅行の推進	交流人口を増加させるため	TVでモンゴルの生活体験をやっていた。他市でもイチゴ狩りやサクランボなど旅行会社とタイアップして好評を得ている。鹿島市でもこのような体験型旅行を増やせないか。
4	6月3日	公募委員 小川雅義	鹿島ならではのしごとを生み出す。	今ある資源を活かし有効活用を図るため	①干潟の潟利用(薬品、化粧品、焼き物、温泉等)…研究機関に調査を依頼 ②下水から未来のエネルギーをつくる。…電力、水素、肥料など ③平谷トンネルから湧出している水の利用…能古見地区への配水、学校用プール、温泉、県境の休憩施設としてコーヒー、軽食、特産品販売
5			観光の素材作りとキャッチフレーズ及び観光大使の導入	〃	①観光の素材作り…マスコットキャラクター、メディアのロケ誘致など ②キャッチフレーズをつくる。「梅をつくってハワイに行こう」など ③観光大使を導入…通訳できる人を人材育成する。
6			地域地域を連携することと交流人口を増やす	〃	具体的な提案のみ、掲載 ・4人目の子供を出産すれば、100万円の祝い金を支給
7	6月8日	観光協会 中村雄一郎	里山資本主義に学ぶ移住者対策	空き家問題が深刻化する中、肥前浜宿の伝統的建造物群保存地区への居住希望者が増えている。受入れ先として先進地の調査や新たな施策を考える必要があるため	古民家にすみ、農業に従事したいという移住希望者に空き家や荒廃園を提供するシステム作りを行う。主体的に取り組むNPO法人等の立ち上げや先進地の調査を行う。鹿島市民の協力を得て、鹿島市版里山資本主義の確立により人口減少に歯止めをかける。

8	6月9日	鹿島青年会議所 峰松宏光	滞在型観光促進のための宿泊施設整備事業「まるごと体験ステイthe しま」	鹿島市は豊富な観光資源があり、近年増加傾向にあるアジアからの観光客などをターゲットとしたより経済効果を生み出す滞在型観光の仕組みを考えるため	①道の駅にオートキャンプ場とキャンピングカー専用スペースの整備を行う。 ②肥前浜宿の古民家や市内の公民館施設などを活用した民泊施設の整備を図る。
9	6月10日	佐賀県 さが 創生推進課 實松尊徳	移住促進における「ビジネスプランコンテスト」の導入について	移住促進にあたっては、地域にとって優位な人材を呼び込むことが必要になるため	ビジネスプランコンテストを実施し、優勝者には、市への移住を条件に一定額の助成を行う。(100万円程度)さらにビジネスプランの成長を支援する。
10	6月10日	区長会 山口賢治	しごと・ものづくり		解決のイメージを提案
			ひとづくり		解決のイメージを提案
			まちづくり		解決のイメージを提案
11	6月10日	文化連盟 向井幸子	地場産品のブランド化による地場産業の振興 ※かしまデリカテッセンのPRIについて	今、鹿島にあるものを活性化することで安定した雇用を創出できるから	①「かしまデリカテッセン」の販路拡大を進めるため、市役所職員をはじめ、議員、食改協、民生委員などの足元からPRをしていく。 ②市のホームページでのPR強化 おいしかった話を掲載するとか ③販売場所をスーパー等に変えたらどうか。 ④一次産業の作物をあつめて鹿島ブランド化を図ったらどうか。 ⑤市内の食堂で使用してもらう。
12	6月10日	農協 森田康子	近未来に人口を増す	農業・漁業に後継者が少ないため	鹿島市への宿泊体験で、農業、畜産業、漁業を体験させ、鹿島市のよさを知ってもらうことで、他地区からの定住促進を図る。
13	6月10日	鹿島実業高等学校 石井誠二	鹿島の素材を活用した高校生による商品開発プロジェクト	産学官が一体になることで話題性が相乗効果が発揮され、地元の活性化につながるため。	鹿島実業高校の商業科、情報処理科、食品調理科の生徒に対し、商品の企画や開発に関する様々なアイデアやデザインなどを依頼したいと考えている企業を市が主導して公募を行う。商品化に向けて、市が補助を行ったり市のネットワークを利用して各種イベントで販売したり、広報活動を行う。
14	6月15日	老人クラブ連合会 高松昭三	「源氏螢の里」鹿島	昔、旭ヶ岡公園には螢がいた。昔のような姿を再現したい。	小学生を交えた螢の飼育を提案する。水路の整備や川二ナの確保、螢の幼虫飼育などを行う。